



とがし博之

国政レポート 2023.7

愛郷無限の遺志を繋いで

故郷を想う心なくして国を愛することはできない。
故郷の発展なくして国が豊かになるはずもない。

令和5年度予算が賛成多数で可決いたしました。

行政を運営する上での基本的な予算である「一般会計」の総額は114兆3812億円。政府は「歴史の転換期を前に、わが国が直面する内外の重要課題に対して道筋をつけ、未来を切り拓くための予算」と位置付けており、当面の物価高対策に加え、防衛力の抜本的強化、こども・子育て支援、デジタル田園都市国家構想、GX(グリーン・トランスフォーメーション)DX(デジタル・トランスフォーメーション)の推進等に必要な施策が盛り込まれております。

私は現在、**自民党経済産業部会部会長代理、商工・中小企業関係団体委員長**として現下の喫緊の課題でありますエネルギー・物価高騰対策、脱炭素社会を目指すGX、コロナ禍で疲弊した中小企業・小規模事業者支援に積極的に取り組んでおります。また、地元秋田では私がかねてより先頭に立って携わってきました洋上風力発電事業をはじめ、環日本海交流地域や地域の拠点となる秋田港等の整備促進、食糧・農業分野においては高収益を生む米や作物への転換や担い手への農地集積、スマート農業の導入など地域活性化のため粉骨砕身の覚悟をもって邁進しているところであります。

今後もこれまでに培った知識や経験を活かし、また恩師の方々の想いを引き継ぎながら国会議員として、県民の皆様の信頼に応えるために真摯に取り組みを続け、困難な課題に立ち向かい、希望と成果をもたらすことを目指してまいりますので、ご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

衆議院議員 富樫 博之

とがし博之プロフィール

昭和30年 4月 27日	秋田市太平に生まれる
昭和50年 3月	秋田県立秋田工業高等学校卒業
昭和54年 3月	秋田経済大学経済学部卒業
昭和54年 4月	参議院議員(後に衆議院議員) 野呂田芳成先生秘書
平成 7年 4月	秋田県議会議員初当選(以来5期連続当選)
平成21年 8月	第62代秋田県議会議員
平成24年 8月	自由民主党秋田県第一選挙区支部長
平成24年 12月	第46回衆議院議員選挙 初当選
平成26年 12月	第47回衆議院議員選挙 当選(2期目)
平成28年 8月	総務大臣政務官(第3次安倍第2次改造内閣)
平成29年 10月	第48回衆議院議員選挙 当選(3期目)
令和 3年 10月	復興副大臣(第1次岸田内閣)
令和 3年 10月	第49回衆議院議員選挙 当選(4期目)
令和 3年 11月	復興副大臣(第2次岸田内閣)

現在の役職 令和5年6月30日現在

- 衆議院 経済産業委員会【委員】
- 衆議院 国土交通委員会【委員】
- 衆議院 政治倫理の確立及び公職選挙法改正に関する特別委員会【理事】
- 衆議院 東日本大震災復興特別委員会【委員】
- 自民党 経済産業部会部会長代理
- 自民党 商工・中小企業関係団体委員長
- 自民党 東日本大震災復興加速化本部常任幹事

地域の熱望が行政を動かす! [国・県・市]の3者協議で全国にさきがけたモデル事業として実現

国土交通委員会で、古川、猿田川、雄物川等の質問をいたしました。5/24(水)



委員会の詳細は動画にて!

河川防災ステーションの整備の意義と今後の展望について

Q 私の地元の一級河川雄物川においても、平成29年7月8月と2ヶ月連続して大きな水害が発生し、中流域に**とがし** においては、堤防整備や輪中堤整備が進んでいる。河川激甚災害対策特別事業が進められ、中流域においては令和4年度から秋田市に河川防災ステーションの整備が進められているが、防災ステーションは災害時に緊急復旧活動の拠点となると考えられるが、それを整備する意義と今後の展望について伺う。

A 水管理・国土保全局長
河川防災ステーションは、災害時に緊急復旧活動や水防活動を行う拠点となるほか、平常時には、地域の方々の交流や憩いの場としてさまざまに活用できる施設です。現在、全国の直轄河川では、86カ所の河川防災ステーションが完成。さらに雄物川の秋田地区防災ステーションをはじめ27ヶ所の整備を実施中である。また、地域活性化に向けて、さらなる活用の促進のため、河川防災ステーションのうち

特に多くの方々に利用が期待される施設を水辺ステーションと位置づけて今年の3月より取り組みを開始している。この河川防災ステーションの整備を自治体など関係者と連携しながら進めるとともに、引き続き防災減災対策、そして地域活性化対策につなげてまいります。

直轄河川整備と流域治水全体の調整役を担う国の役割について

Q 平成29年、30年と連続して秋田市南部地域の住宅地が浸水被害を受けたところであり、直轄**とがし** 国道も通行止めになるなど市民生活に甚大な影響を与えた。国管理の雄物川、県管理の猿田川、市管理の古川が合流することにより水位の高い一級河川に中小河川が流入できず氾濫してしまう状況でした。地元の要望を受けて、**国が中心となり、異なる河川管理が一体となって総合的な治水対策に取り組む協議会が発足し、国・県・市の3者が一緒となり地域での説明を重ねて治水対策に取り組む体制が機能するようになった。**この流域治水関連法の改正がモデルケースになったと考えられるが、直轄河川整備と流域治水全体の調整役を担う国の役割について伺う。

A 水管理・国土保全局長
平成29年、30年と浸水被害が発生した雄物川水系の支川の古川の流域では、国の秋田河川国道事務所が主導して平成30年8月に古川流域の総合的な治水対策協議会を立ち上げて流域の浸水被害の軽減に向けて国・県・市が一体となりその対策をまとめたところである。具体的な対策としては、国の方では雄物川本川水位の軽減を図るための河道掘削を実施している。また、秋田県においては支川猿田川の

排水機関の整備、秋田市では古川排水機場や古川雨水排水ポンプ場などの整備を実施している。今後とも地域住民に丁寧に説明を行いながら、これらの事業を実施するとともに国土交通省が流域の旗振り役となって、流域治水を本格的に推進し、水災害に強い国土づくりに全力で取り組んでいく。

Q とくにこの地域の3者協議会【国・県・市】が令和元年にスタートしている。毎年協議会を重ねながら**とがし** その抜本的な治水対策を地域住民に丁寧に説明しながら、地元の意見を組み入れて、現在その対策に当たっている。令和5年も流域の総合的な治水対策の協議会を開き、そして住民にさらに説明していくよう今後も国にお願いする。

特にこの地域は長年水害で非常に悩んでいる地域で、雨量の多い場合は以前から床下、床上まで水が上がります。この地域の人たちにとってはこの治水対策が長年の悲願なのです。是非、予算も含めて国の後押しをお願いする。

古川流域治水対策事業住民説明会



R5.6.10

古川流域の総合的な治水対策事業に関する説明会

今後も地域の皆さまに丁寧な説明を行って意見を組み入れ対策に当たってまいります。

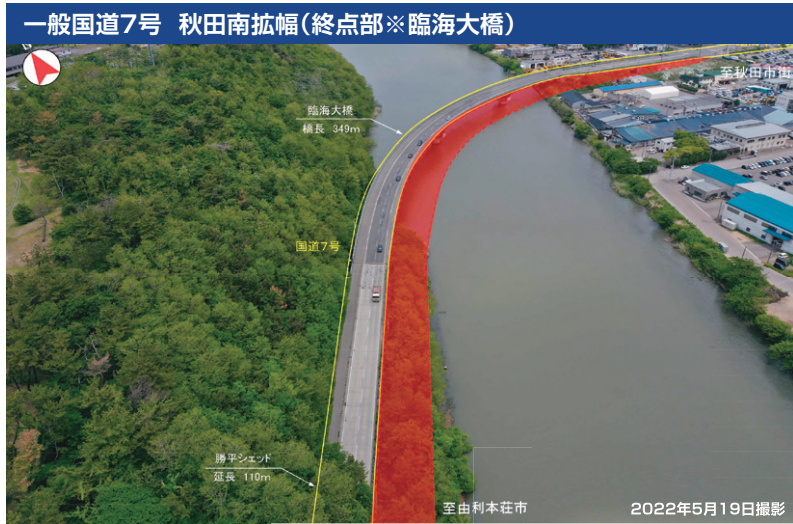
小さな声を大きな喜びに変える実現できる政治!!

各事業の今年度当初予算

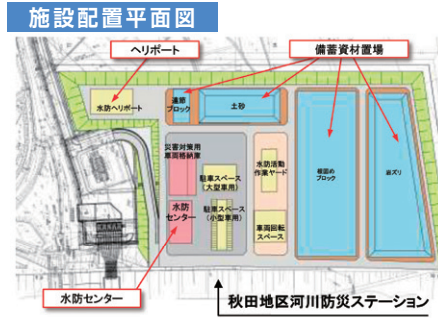
- ①「秋田地区河川防災ステーション」整備事業 **11億700万円**
- ②「国道7号秋田南拡幅」事業 **1億円**
- ③「国道13号河辺拡幅」事業 **8億7,000万円**

②「国道7号秋田南拡幅」の事業

国道7号「秋田南拡幅」は、臨海十字路口までの2車線区間を4車線化に拡幅する事業で、令和4年度新規事業化が認められ、1億円の予算で調査・設計を進めているところです。これから本格的な橋梁工事に取り掛かることとなりますが、予算獲得に取り組み早期完成を目指します。



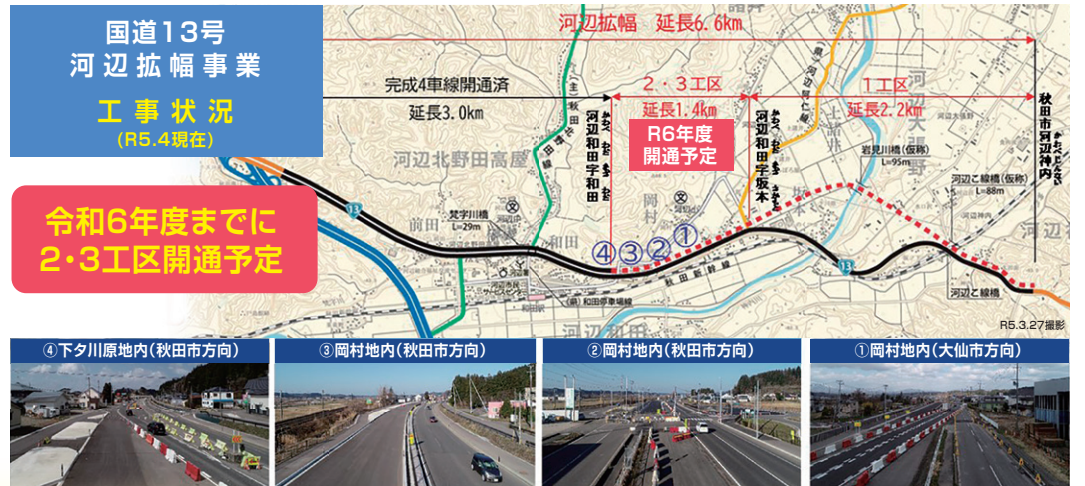
①「秋田地区河川防災ステーション」の事業



河川防災ステーションは、雄物川下流域の洪水被害を最小限とするため、災害時に必要となるブロックなどの緊急用資材の備蓄、ヘリポート等の整備を行うとともに、緊急車両の基地のほか、秋田市が水防センターを設置するなど、災害時の活動拠点となる施設です。また、敷地を活用したレクリエーションなど地域交流の場や、イベント時の活用、防災訓練、防災教育の場など、平時においても、地域の方々の交流や憩いの場として様々な活用方法で利用することができる施設です。今年度は用地補償を実施し、着実に事業を進めてまいります。

③「国道13号河辺拡幅」の事業

秋田市河辺地区は大仙市などの県南地域や岩手県と秋田市を行き交う2万台/日以上交通が集中して慢性的な交通渋滞が続いており、この渋滞を解消するために拡幅工事が進められています。県議会議員当初から携わってきた事業です。河辺拡幅L=6.6kmは交通渋滞の解消や生活環境の改善、三次医療施設や秋田空港、秋田自動車道へのアクセス向上による、地域間交流の促進を目的に事業が進められています。また、事業の進展を見据えて、今後道の駅の検討を進めたいと考えています。



「多機能型ケアベースにのこ」の竣工披露式



非営利法人「にこっと秋田」を運営している代表の八代美千子さんを始めスタッフ・ボランティア等の献身的な介護ケアが評価され、国や秋田市の支援をいただいたの竣工式でした。

後日、代表の八代美千子さんよりお礼のお手紙をいただきました。

富樫先生
先日はお忙しい中、竣工式にご出席いただき、本当にありがとうございました。
先生をはじめ、たくさんの方のご支援があって、やっとここまでたどりつくことができました。感謝の気持ちでいっぱいです。
4月から新施設での活動がスタートし、週末だけではなく短期入所(ショートステイ)も始まりました。めんこさん達と一緒に泊まりをしてみても、この状態で毎晩すごしているんだと、初めてご家族のご苦労におどろいています。

秋田県の総合的な少子化対策に関する要望



小倉少子化対策担当大臣へ秋田県の総合的な少子化対策と婚姻数増加に向けた賃金水準の向上や結婚支援の要望

修学旅行で国会見学に訪れた秋田市の中学生にご挨拶



修学旅行の一環で国会見学に訪れた中学生にご挨拶させていただきました。子ども達の輝く目に明るい日本の未来を感じました。

次元の異なる少子化対策へ

児童手当

- 所得制限を廃止し、全員に給付
- 支給期間: 中学卒業まで→高校生年代※までに延長
※18歳に達する日以後の最初の3月31日までの間にある者
- 支給金額

	0歳～3歳未満	3歳～高校生年代
第1子・第2子	月額15,000円	月額10,000円
第3子以降	月額30,000円	

※令和6年度中に実施できるよう検討

こども未来戦略方針を閣議決定

政府は、2024年度からの3年間に集中して取り組む「加速化プラン」に3兆円半ばを投入するとし、児童手当の所得制限を撤廃。また、支給期間を高校生まで延長することとし、第3子以降は3万円に倍増するとしました。
大学に進んだ場合の高等教育費の負担軽減については、授業料減免の対象を世帯年収600万円までの多子世帯などに拡大。岸田総理は、児童手当の拡充について2024年10月分から実施する考えを表明いたしました。
「出産・子育て応援交付金」10万円は、制度化に向けて検討。出産費用(正常分娩)の保険適用は、2026年度をめどに導入を検討。幼児教育・保育の質の向上では、75年ぶりに保育士の配置基準を改善。保育士1人が見る1歳児を6人から5人、4・5歳児を30人から25人とするなど、保育士の処遇改善に取り組むこととしました。

こども未来戦略方針

- Point1 経済成長実現と少子化対策を「車の両輪」に
経済成長の実現 少子化対策 → 若者・子育て世代の所得を伸ばす
・ 少子化対策財源 ・ 徹底した歳出改革等で確保
- Point2 「3兆円半ば」の規模 大倉を3年で実施
こども家庭庁の予算 → 5割以上増 → 2030年代初頭までに倍増
- Point3 スピード感
今年度から 出産育児一時金引き上げ ・ 0～2歳の伴走型支援など
来年度から 児童手当の拡充 ・ 「こども誰でも通園制度」など
さらに 「高等教育のさらなる支援拡充」「貧困、虐待防止、障害児・医療的ケア児支援」の前倒し

今後の日程

- 8月24日 親睦ゴルフコンペ ビアパーティー
- 9月12日 とがちゃん杯ビニールバレーボール大会
- 予定(日時未定) グランドゴルフ大会

とがし博之 事務所

(自由民主党秋田県第一選挙区支部)
〒010-1427 秋田市仁井田新田3-13-20
TEL.018-839-5601/FAX.018-839-7911
E-mail: hiroyuki@togachan.jp

〒100-8982 東京都千代田区永田町2-1-2
衆議院第二議員会館1019号室
TEL:03-3508-7275(直通)/FAX:03-3508-3725

